

始める前のお願い

このパワーポイントに使われる子どもの写真は

東京家政大学ナースリールームと一般家庭、小西貴士氏（写真家）

許可を得て使用しています。

写真の撮影や保存はご遠慮ください。

2022年神奈川県私立幼稚園連合会 1

今、乳児保育が重要な訳

～保育者に求められる専門性とは～

井桁 容子

乳幼児教育実践研究家

非営利団体コドモノミカタ代表理事

国立成育医療研究センター

コロナ×子ども本部の調査（2021年8月5日オンデマンド講演資料）参考

- ・ 子たちのストレス増加（イライラ・不安・無気力・うつ）
- ・ 就寝時間（小学高学年以上の3割に乱れ、遅れ）
- ・ スクリーンタイムの増加（小学生から高校生まで4割以上増加）
- ・ 食習慣（小学生以上、間食が増えた）
- ・ 対人関係（大人に話しかけにくくなった）

- ・ **未就学児の心の健康（支援の必要 20～40%）**
 - かんしゃく・イライラ・暴力
 - 分離不安・甘え・赤ちゃん返り
 - 遊びの中でコロナの表現
 - 身体の不調
 - 朝、目覚めるのに時間がかかる
 - 無気力、登園しぶり
 - 自傷行為（爪を噛む、髪の毛を抜く、自分をたたく）

ア
タ
ツ
チ
メ
ン
ト
の
保
障

コロナ禍前から

子どもや若者、保護者に見えていたこと

頑張らないと許されない

(自信を無くす)

みんなと同じでないと不安

(同調圧力を生む)

人間関係のフラット化

(コミュニケーション力の低下)



若者の自殺が世界で一番

子どもの自殺の増加

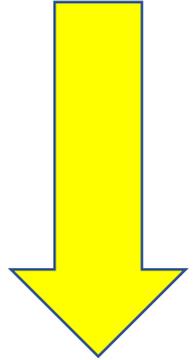
いじめ、不登校の増加

子育て相談から見えてくること

- ・ 保育者から
「困った子ども、気になる親子が・・・」
- ・ 一般の保護者から
「うちの子発達障害だと思うのですが・・・」

エピソード

バナナの皮を自分で剥きたがらない 3 歳児



知っているという思い込みはないか？

保育者のまなざしの確認・点検の必要性あり

- ・人間の脳が勝手にパターン化、勝手にデフォルメする癖があるから

直感からくる誤謬を見直す（思い込み・決めつけ）

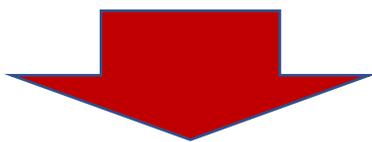


自分が正しいとは限らない（自己批判・謙虚さ）

直感的、本能的、経験主義に終わらせずに注意深く考え物事をよく見る

他者の話に耳を傾ける

コロナ禍の子どもの変化



これまでの保育を振り返る
保育者一人一人の保育観を振り返る

保育者の保護者理解は正しい？

- ◆ 親による子育て（ペアレンティング）について
- ◆ 江戸時代の子育ても親は悩んでいた

専門家としての正しい認識から

★ 「乳児」とは

生後28日未満

新生児

生後28日から1歳未満

乳児

※ 「乳児保育」とは

0歳1歳2歳児の保育

★ 「幼児」とは

1歳～就学前まで

「保育」

意図をもった専門家の関わり
養護と教育を一体的に行う

と

「育児」

一般の子育て行為

科学的根拠のある乳幼児理解の重要性

- ・ **ヒトの生物としての特性と子育ての歴史の理解**

ヒトの脳の成熟には25年かかる

「共同養育」により、進化、生存してきた

- ・ **脳の発達の第1感受性期**

過形成から刈り込み（生後8ヵ月ごろ）

生きる環境に適した脳は7～8歳で感性

- ・ **身体接触や共感されないと生存できない**

内受容感覚（身体内部の感覚＝内臓感覚）

外受容感覚（身体外部の知覚＝五感覚）

自己受容感覚（身体＝環境の行為で生じる感覚 筋、関節、平衡感覚）

乳児保育の基本

幼保連携型認定こども園教育保育要領

第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項 第1 乳児期の園児の保育に関するねらい

基本的事項

- 1 乳児の発達については、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるといった特徴がある。これらの発達の特徴を踏まえて乳児期の園児の保育は、**愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である。**
- 2 本項においては、この時期の発達の特徴を踏まえ、乳児期の園児の保育のねらい及び内容については、身体的発達に関する視点「**健やかに伸び伸びと育つ**」、社会的発達に関する視点「**身近な人と気持ちが通じ合う**」及び精神的発達に関する視点「**身近なものに関わり感性が育つ**」とまとめ、示している。

「フォーカシングイリュージョン」

ダニエル・カーネマン

(アメリカの心理学者・行動経済学者)

(ノーベル経済学賞受賞)

「○○すれば幸せになるはず」というようなある特定の状態に
自分がいれば幸せになれると思ひ込み。
その状態が自分が幸せになれるかどうかの分岐点であると
信じてしまう人間の偏向性

思ひ込みから生じる幻想

◆◆ 幻想から来る子育てや保育・教育観 ◆◆

結果を急ぐ



待てない
効率の良さ

成果主義



失敗を恐れる
マニュアル化

子どもや保護者を
信頼できない



時代遅れの子育て
保育・教育観

逆境から立ち直る力（レジリエンス）

強さ・賢さ

<

しなやかさ

大人の指示通り

<

自分の気持ちや
考えを表現できる

人生は将棋の駒

<

人生は将棋の指し手

知っているという思い込みはないか？

保育者のまなざしの確認・点検の必要性あり

- ・人間の脳が勝手にパターン化、勝手にデフォルメする癖があるから

直感からくる誤謬を見直す（思い込み・決めつけ）



自分が正しいとは限らない（自己批判・謙虚さ）

直感的、本能的、経験主義に終わらせずに注意深く考え物事をよく見る

他者の話に耳を傾ける

保育・教育・子育て支援は、
子どもや家族が
幸せに生きるために、
その育ちを応援すること



幸福とは (前野隆司 氏：慶應義塾大学大学院教授の幸福学研究参考)

非地位財

利他的

視野が広い

ポジティブ

異質の友達

創造性が高い

「幸せ」と感じる人は

- 創造性が3倍、生産性が1.3倍高い
- ヒューマン・スキルが高い
(性格がいい)
- 幸せは伝染する

大人たちの子ども時代から今の子育てを考える

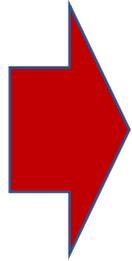
- ・ 戦争を体験した
- ・ 高度成長期に頑張った親に育てられた
- ・ バブル時代とバブル崩壊
- ・ IT (Information Technology) 革命
- ・ ブーカの時代



歴史に学び、子どもたちへの未来に想いを馳せて保護者と共に関わり方を考える

育て急ぐ大人が多い理由

技術の国
日本



機 械

進歩
効率
均一
量

と



生き物

進化
過程
多様
質



早く、無駄なく、みんなと同じように、たくさんできることを求められることは機械に近づくこと

「速く成長するものは すぐに枯れ

ゆっくり成長するものは 永存する」

—J.G.ホーランド(アメリカ：作家)—

<能力の三つの柱>

何を知っているか、何ができるか

⇒ 認知的能力、個別の知識や技能

知っていること・できることをどう使うか

⇒ 思考力・判断力・表現力など

どのように社会・世界とかわかり、より良い人生を送るか

⇒ 主体性・多様性・協調性・学びに向かう力・人間性

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、
社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

<架け橋プログラムの検討>

幼児教育（保育所・幼稚園・認定こども園）と小学校教育とのカリキュラムをつなぐ

子どもが幸せに生きることにつながらなければ意味はない

心の育ちが重視される時代

生きる意欲

関わる意欲 ← 心の安心・安全

学ぶ意欲

エピソード

問題

この行為で、T君（3歳）は、どんなことを学んだのでしょうか？

子どもと保護者に信頼されるポイント

「自分の気持ちをわかってくれている」

と感じた時



共 感



傾聴（耳も心も目も傾けて分かってもらうとする）

共 感
と
同 感

※内受容感覚（身体内部の感覚＝内臓感覚）

ヒトの脳にはクセがあるらしい

あなたはどちらですか？

考え方を

揺さぶられることを好む

揺さぶられることを好まない

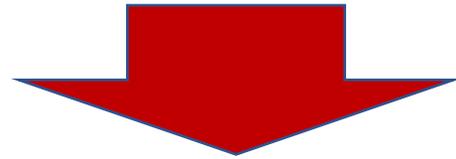
古い見方、考え方を自覚する

子ども観・・・子どもは無能で受け身的存在

子育て観・・・ペアレンティング（親による育児）

保育観・・・みんな同じことができるように

教育観・・・教えてさせてできるようにする



大人たちの

パラダイムシフト（価値観の変容）

トランスフォーミング（メタ認知）

保護者の中にも、

保育者が学ぶ視点や関わり
ができる人がいる

VUCA（ブーカ）の時代

（行き先が不透明で何が起こるかわからない時代）

Volatility 変動性

Uncertainty 不確実性

Complexity 複雑性

Ambiguity 曖昧性

ワンパターン

指示通り

では乗り越えられない

誰もが初めての経験をした
でも、よく考えてみれば、
人生は思いがけないことが
起こるのは当たり前
決まったことしか起こらない
ということは1日たりともないはず

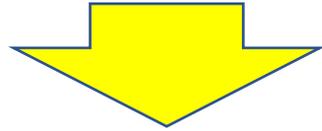
『方丈記』 鴨長明
鎌倉時代随筆
「ゆく川の流ればたえずして・・・」



保護者との信頼関係

1, 2歳児期の

「イヤイヤ期」



専門家の解説が捉え方を変える

「イヤと言える期」

「わかってもらえない期」

乳児保育・子育て支援の重要性

親になって初めての出会い

(出産、父母としての役割、子育て、保育施設、支援センター)



親としての土台が築かれるとき

アタッチメント → 「情緒的利用可能性」

子どもの権利 → 「主観的確信」

倉橋惣三 → 「うれしい先生」

「その子にとって」、「その子どもが求めていること」

今、求められる子育て支援は

子どもの行為の意味を学びやその子らしさとして
解説できる専門家

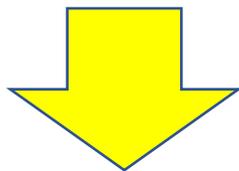


保護者の子ども理解が深まる



負担感が軽減し子育ての面白さが増す

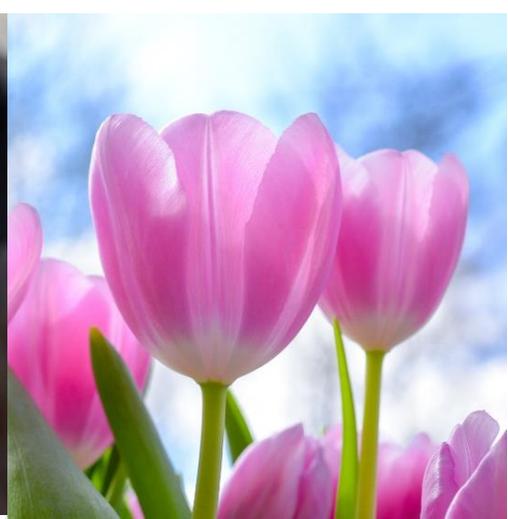
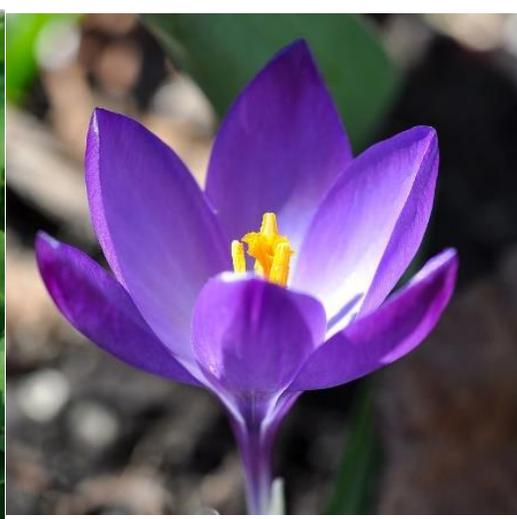
「花」



違っているのに
1つにくくられてしまう

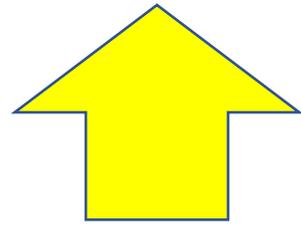


違いがある
好む環境がちがう
花は好き嫌いがあっても罪深くないが . . .



植物にとって大切な

水 ・ **太陽** ・ **養分**



与え方で害になる、枯らす



植物と同じように子どもたちも

何も言えずに

置かれた環境で懸命に生きている

敏感さは、たくさんの発見、学びがある

時に厄介

脆い

理解されにくい

子どもは、信頼すべき存在と
気づくことで大きな変化

保育者の子どもへの関わりが

手本になっている

「もっともよい教師は、子どもと共に笑う
もっともよくない教師は、子どもを笑う」

★子ども好きには2種類

A ペットのように接する（権威主義）

B 謙虚に子どもと共に歩む

A.Sニイル（教育家：イギリス）

『体験学習で学校を変える』
一きのくにこどもの村学校づくりの歩み—
堀真一郎著 黎明書房 参考

これからの子ども主体の保育・教育の考え方

教えられらことを覚えてできるようにする

→ みんな同じ
意味記憶



経験を通して感じ考え、分かる

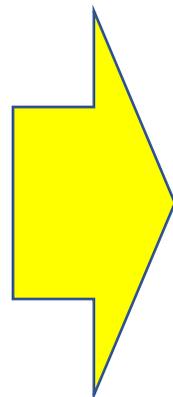
→ その人だけのもの
エピソード記憶

doing保育

比べる

同一性の重視

結果、成果



being保育

◆ 比べない

◆ 個性の尊重

◆ 意欲、満足感

人として

生きる楽しさに

気づく保育・教育

